からほり新聞

第10号
〈2006.8.1〉

住民の力でからほりを キレイにしましょう！

今年3月1日、前野浩志さんが突然の脳溢血が元で急死されました。前野さんの名前は知らなくても、からほりの住民なら一度は彼を見たことがあるはず。10年以上も前から雨の日も風の日も、ほぼ毎日ボランティアで谷町筋の清掃をしていたあの方です。

ポイ捨てされたゴミやタバコの吸い殻を掃き集め、通行の妨げになる歩道の自転車を整頓しておられました。そうした活動に、大阪市の環境事業局から感謝状が贈られた事もあったそうです。

町会費でホウキとチリトリを買って贈ったり、「いつもご苦労さん。ウチに来たら安うしたげるよ」と、前野さんの活動を応援し懇意にしている付近の住民や店主も多くいました。前野さんは阿倍野区にお住まいでしたが、葬儀の当日は霊柩車が谷町筋を通りました。沿道には合掌して見送る人たちが並び、「ありがとう」と感謝を表わす横断幕も掲げられていたそうです。

そして後日、有志の間で「前野浩志さんを偲ぶ会」が催されたのですが、その席でからほり界隈の汚れが話題に上りました。ポイ捨ての他、落書きは酷いありさまです。歩道沿いに設置されたほとんどの変圧機のボックスや、名物とも言える古い石垣も大きな落書きで汚されています。

からほり新聞では、こうした事態を憂い、谷町筋の清掃活動を行います。つきましては、ボランティアで清掃に参加して頂ける方を募集しています。住民の力で私たちのからほりをキレイにしましょう！

「からほり界隈ゴミ拾い」ボランティア募集

8/26㊏
午後4～5時

谷町6丁目交差点から7丁目までのゴミ拾いを行います。集合場所は谷町六丁目④番出口（薬業年金会館前）、清掃用具はご用意します。当日お集まりください。

なお、世話人会を8月7日(月)夜7時より「からほり・さろん」にて開催します。活動に興味ある方のご参加をお待ちしています。お問い合わせは6764・4002まで

「空堀界隈をご散策される皆様へ」

◆路地の奥は私有地が多いのでご注意ください。
◆美しい石畳や木造家屋にゴミは似合いません。
◆商店街は生活の場でもあります。節度とマナーで笑顔が増えます。

谷町筋を清掃していた前野さん

前野さんが残した呼びかけ看板は、今も谷町筋にある

町の名物とも言える石垣にまで…。

〔発行〕「からほり新聞」制作チーム「特定非営利活動法人 高齢者外出介助の会」内 TEL&FAX 06-6764-4002

からほり伝言板

かみなり亭寄席
奇数月の第2土曜日午後6時30分より。会場:薬業年金会館。出演:笑福亭一門ほか。
問い合わせ:06-6768-3549

楓ギャラリー
▶8/29～9/10陶オブジェ
▶9/12～17浮田孝一遺作展（油彩）
▶9/19～24三間和子展（油彩）
▶9/26～10/8Simply form―屏風
▶お問い合わせ☎6761-0388
▶ホームページでは展示内容がご覧になれます。
www7a.biglobe.ne.jp/~kaede-g/

「地蔵盆」
8/22、23の両日を中心に町中のあちらこちらで地蔵盆が行われます。「からほり新聞」第3号〈2003.7.21〉からほり界隈お散歩MAPにお地蔵さん特集があります。ホームページをご覧ください。
www9.ocn.ne.jp/~ode-kake/

高齢者外出介助の会 「からほり・さろん」 News

お年よりの皆さんに、住み慣れた町で楽しく充実した暮らしが続けられることを願って支援活動や暮らしの潤いに様々な企画を推進しています。

〔からほりさろん〕

■**懐かしい映画の会**（毎月第2・4土曜日午後2時から）9月から再開します。お楽しみに。

■**食事会**（毎月第3木曜日12時から）一人暮らしや食事作りが少し億劫になった皆様の参加お待ちしています。参加費400円（材料代300円、光熱水費100円）

■**絵手紙**（毎月第4水曜日午後1時30分から）

〔その他のプログラム〕

■**「みんなで集う秋のコンサート」**11月18日（土）大阪府立ドーンセンターにて、午後1時30分から。マリンバの楽しい演奏です

■**「暮らしサポータ始めます」**介護保険を利用できない方が日常の掃除や洗濯、買い物、また、入院時の支援を致します。

☆編集後記

◆夏のムァっとした草いきれは、野原を駆け回ってた頃の匂い。夏休み、スイカ、花火etc…全てが今より新鮮で遥かに楽しかった。大人の今、思い返すと切ない。（高田）

◇天神祭り過ぎの梅雨明け、季節の乱れや変な気象が多くなって、人の心にも心配なニュースが増えた様な気配が。（山名）

◆声が出なくなり耳鼻科へ、おまけに前歯が欠け歯科へ。前例のないことで驚いています。（永井）

◇梅雨時が過ぎると子どもたちは夏休みです。昔は昼間から見かける元気な姿をうらやましく思ったものでした。でも、最近は…あまりいませんね。（山本）

◆祇園祭りの日が誕生日ですが、未だに行ったことがありません。今年は、休日でチャンスだったのに…（山添）

◇クマゼミの大合唱よりもヒグラシの独唱が聞きたい（千場）

◆祝(?)からほり新聞第10号（嶋）

「からほり新聞」は高齢者外出介助の会に集う有志が、愛する「からほり」の賑わいを願って作っている無料のコミュニティ紙です。ご意見・ご感想・投稿・イベント情報などお待ちしております。また、「新聞置いてあげてもいいよ」とおっしゃってくださるお店も大募集。「からほり新聞に参加したいなー」と思われる方、大歓迎です。気軽にご連絡ください。**（現在45カ所設置）**

特定非営利活動法人
高齢者外出介助の会とは？

お年寄りの皆さんに、より楽しく充実した日常生活を過ごしていただくため次のような活動をしています。

①**外出介助**（買い物、お墓参り、通院など）
②**在宅支援**（家の修理、家具の移動）
③**入院支援**（入退院時同行、洗濯、買い物など）
④**生きがい作り講座**（童謡・唱歌を歌う会、絵手紙くらぶなど）
⑤**大阪の文学を読む会**（学び）
⑥**車椅子、シニアカー貸出**
⑦**「からほり新聞」制作**

お気軽にお問い合わせください。

大阪市中央区松屋町4-8 メイツ松屋町1階
（おとうふ屋さんのおとなり）
TEL&FAX 06-6764-4002
月～金（10:30～15:00）
E-mail: odekake@helen.ocn.ne.jp
ホームページ: www9.ocn.ne.jp/~ode-kake/

マリンバを楽しみませんか？

毎週木曜日「からほりさろん」で教室をしています。
見学・体験（1回）大歓迎!!
くわしくは高齢者外出介助の会でお問い合せください。
指導：北口 桂

司法書士 千場悦子（ほしば・えつこ）
不動産登記全般／売買、贈与、相続登記など
会社の登記全般／成年後見、遺言書作成相談
中央区谷町六丁目6番7号 第五松屋ビル220号室
桜井義浩司法書士事務所内
TEL.06(6764)0889 お気軽にお問い合わせ下さい。

みんな同じ人間なんです。

一期一会に育つ子どもの豊かな心

――上町中学校の福祉体験学習の取り組み

山名さん・坂本さんの熱き語り

六月に、大阪市立上町中学校二年生は、地域にお住まいで車椅子生活をされてる山名勝さん、坂本教治さん、そして宮城佳司さんのご支援を得て、福祉体験学習を行いました。

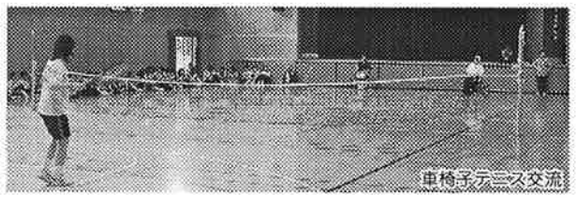
創立53年目を迎える上町中学校の教育活動は、半世紀の歴史を越えた今、大きな節目を迎えているように感じます。

「生きる力をはぐくむ教育活動の推進」が大阪市教育指針の重点目標です。生きる力や豊かな心は、人と人とが触れあうことで育まれるのだと思います。

聞き取り学習では、子どもたちから素朴な疑問を投げかけ、山名さんや坂本さんからは、熱き思いを子どもたちへ語られていました。

車椅子で生活しようが、健常であろうが、「みんな同じ人間なんです。」と語られた言葉が子どもたちの心に伝わったように感じました。

聞き取り学習の後、子どもたちは「障がい者」と表記するようになりました。なるほど、言われてみれば、「障害者」という表記は、おかしいと感じました。車椅子テニス交流では、子どもたちは驚きと同時に、改めて抱いていた心の壁を崩すことができたようです。


車椅子テニス交流

同じ人間である以上、生活していくのに必要なことは勿論のこと、スポーツをしたり、旅をしたりとそれぞれの趣味を満喫したいと思う心も同じです。

「子どもは地域の宝である。」自分の住む地域を愛しむ子どもたちに育てたいです。学校では子どもたちとともに楽しく学び、私は地域の方々との一期一会に感謝と感動の毎日です。

大阪市立上町中学校
教諭　林　謙太郎

地域の皆様にも参観していただきたい――

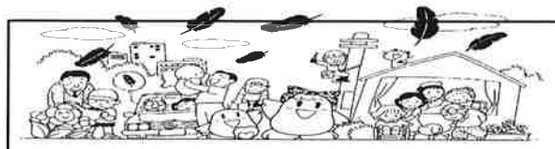
上町中学校オープンスクール

平成18年10月24日(火)～27日(金)

子どもたちの学び
学校の取り組み

24日(火)　午前中【授業参観】
25日(水)　午前中【授業参観】
26日(木)　午前中【授業参観】午後【芸術鑑賞】
27日(金)　午前中【文化活動発表会・体育館にて】

ご近所お誘い合わせの上、ご来校ください。



地域の福祉、みんなで参加

●地域の福祉の充実に、みなさまのご支援をよろしくお願い致します。共同募金は、10月1日～12月31日の期間ですが、年間を通じて寄付金を受付しています。●大阪府共同募金会事務局は、谷町7丁目交差点を信号1ツ西入ルの大阪社会福祉指導センターの2階にあります。どうぞよろしく。●ホームページをぜひご覧下さい。http://www.akaihane-osaka.or.jp

天然石とフラワー・エッセンス
―癒しの部屋
晶★晶（じん　じん）
「じん☆じん」は
予約or紹介制の癒し処です。
中央区瓦屋町1-1-6　TEL 06-6764-9166
http://akkies.com/

nico+
カフェ・古本・雑貨・ギャラリー・ハンドメイド「ナランハ」
中央区瓦屋町1-2-1　TEL 06-6761-6323
http://plaza.rakuten.co.jp/nicokarahori/

ケラ子の介助日記

かけがえのない一日

老人ホームに入所されている百歳目前の利用者のことで、悲しい事がありました。電話で「明日、散髪と食事に連れてって」と依頼がありました。

外出介助の会は、依頼を受けてからボランティアを探す仕組みなので、このように直前に依頼されると大変苦労します。でも「急にはムリ」とずらしてもらった後で、本人の状態が変り、外出できなくなって悔むより、希望された日に共に外出できることを楽しもうと、多少ムリをしても引き受けています。この時も、なんとか対応できることになりました。

ホームから連れ出すには家族の許可が必要なため、ご子息宅に依頼、「連絡しておきます」と言われたので、ボランティアは予定通り翌朝迎えに行きました。でもトラブルの連絡が。「ホームにお迎えに来たら、家族から連絡がないので出せないと足止めをくい、昼過ぎからやっと散髪屋だけ行き、今ホームに帰るところです」

愕然としました。当人が高齢であったために、過剰な心配がこんな形になったのでしょう。ホーム側の事情もあるでしょうが、結果的に本人の意思が無視され、行動が制限されたことに怒りと哀しみを覚えました。

高齢になればなるほど、一日一日は大切で、例え平凡な外出であっても一期一会の出来事なのです。

高齢者外出介助の会
事務局長　永井佳子

車椅子から眺めてみれば

街の車いすおじさんから④

高齢や障害のために車椅子生活になることは誰にでも起こるかも…そんなことになって気が付いたり考えたことを連載で。

中央区の一部の町会で、非常時に備えるための連絡先を記入した家族名簿作りが行われています。上町台地の西側、横堀川辺りは上町断層として知られている地震の巣ですが、長い間活動していないので、危険度が増して来ていると言われています。南海地震も既に何時起っても不思議ではない時期に入っていると警告されています。

空堀地区は狭い路地や棟割り長家が多い上に、高齢者の独り暮らしも増え、災害にどう備えるかが頭の痛い問題です。昨年、区長に防災対策として住人の実態調査をし、救助の必要な人の把握など必要では、と進言したところ「個人情報保護法で区がそのような情報を持つのは難しく、町会でやってもらうしか」と返答されていたのです。

車いすはもしもの時、避難所まで行ける可能性はほとんど無く、近所のお年寄りも同じです。元気な若者が近所に居たとしても、よその家族の心配が出来るまでには時間がかかる事でしょう。昔ながらの路地での暮しでは、火事を出さないことが一番大切で、地震は逃げようが無いと諦め意識が強かったようです。

空堀の町並み保存事業でも、路地の防災に取組む催しの企画が進行中で、住民の方から点検し集会で話し合い、区や消防とも情報や意識を共有する試みをしようとの呼び掛けが近く行われます。

（山名　勝）

高齢者の方々が外出されるときの外出介助ボランティア求めています。

通院、お買い物、お墓参り…などなど。

詳しくは当会事務所までお願いします。

高齢者外出介助の会　☎06-6764-4002

たまり場 すかんぽ
電話（06）6764-4643
17:00～23:00（日曜日休み）

すかんぽ鍋（ホルモン鍋）
ちげ鍋（明太・豚肉・豆腐）
チヂミ／ム／海鮮サラダ
骨つきカルビ
上ミノみそやき
生レバー／コッケ
赤センボッカ

谷町六丁目、南③番出口より徒歩5分弱。
空堀商店街東筋入る、スグ北側（谷町6-3-10 広橋ビル2F）

勝手にからほり 雑見ニュース

〝おっさんとおばさんの店、しまやん〟

四代続き桃園小学校卒の生っ粋の空堀っ子、島田さんが居酒屋「しまやん」を開店。（御祓筋菱屋さん向い）

お母さんが主役で、上町中1期生のお父さんはこだわりの1品担当。前から仕事やめたらお店しようねと話し合っていて、89才のおばあちゃんの住家を改装、介護もしながらお店を切り盛り。長男も手伝って、地元の人が気軽に飲める場にと張り切っています。

あれっ、「ともちゃん」だ!

ともちゃんポスターに登場！

路地に存在感を示しているクロ猫の写真ポスターが、こんぶの土居さんの掲示板に貼られ注目を集めました。大阪専門誌「大阪人」7月号、空堀大全の巻頭写真に登場して話題になったこのネコの名は「ともちゃん」。

こんなに人懐っこくて界隈のアイドル的ネコは、他にもなん匹か住んでいて、空堀の景色には欠かせない存在です。

高齢者に身近な手続きや制度についてご紹介します。

遺言（二回目）

今回はもめ事の種を残さない遺言書の書き方についてです。前回の事例1のAさんは考えた末に自宅の土地建物は長男に、預金は次男に相続させようと決めました。

遺言書には数種類ありますが、費用をかけずにすぐ書けるものに「自筆証書遺言①」があります。①は遺言内容の全文、年月日、名前を自分で書き印鑑を押せば完成です。パソコンを使わず「手書き」という点が重要です。

そんなに簡単なものより「公正証書遺言②」のほうが立派で威力がありそうという声が聞こえてきそうですね。しかし「遺産を誰にいくら与えるかを伝える」という点で①と②で効力の違いはないのです。ただ②には、遺言者の死後に必要な「遺言書の検認」という手続きが不要であることや、原本が公証役場に保管されるので遺言書の紛失等に備えることができるという長所があります。

まずは練習で①を書いてみましょう。遺言書は書いた本人の死後に他人が読むものですから、明瞭明確に書くことを心がけて下さい。不動産であれば単に「自宅」と書くのではなく登記簿上の地番と家屋番号で特定する、預金は金額だけでなく銀行名と口座番号も書く。書き方ひとつで遺産分割が争いなく行なわれるかが違ってきます。遺産以外のことを書いても構いません。Aさんの遺言書にも最後に「兄弟仲良く助け合って頑張れ」の一言が添えられていました。

司法書士　千場悦子

（ほしば・えつこ）

快傑！からほり人

快傑ファイル其の九（後編）

病苦と孤独の中で結実した「お話」への想い　たなかやすこさん

結婚後、羽曳野でのボランティア活動がきっかけでお話に出会い、語部（かたりべ）となったたなかさん。現在はお話のプロとして自分を表現し、「お話には、その人の人（にん）が出る」と語る。その想いは、95年に帰郷したからほりでの、懐かしくも辛かった生活の中で掴むことになる。

帰郷の目的は、大腸ガンを患った父親の介護だった。母親は痴呆になり妹夫婦が介護。たなかさん自身も糖尿病を患い、それが元でご主人との関係が悪くなり別居という選択でもあった。10数年ぶりに戻ったからほりには、「お早ようお帰り」「毎度おおきに」など、子どもの頃から親しんだ温かい言葉が満ちていた。癒やされながらも、これからどう生きるかを考えていた。

「からほりは懐かしいけど、糖尿で体はしんどい。毎日『しんどい、しんどい…』が口癖になってました」。やがて、父が亡くなり、しばらくして母も逝った。還暦を迎えた身に大挙して押し寄せて来る悲哀。喪失感がもたらす孤独。心身を蝕む病の辛苦。「子育ても終えたし、家族も失った。もうお役は終ったやろ…」。そんな虚無感と諦観が「しんどい」の口癖を、いつしか「死にたい」に変えていたという。

そんなたなかさんを救ったのは、やはり「お話」だった。ある時、「死神どんぶら」というお話を一人の部屋で語り、自分に聞かせたらしい。このお話は児童文学作家、斉藤隆介の作品で、大酒が原因で嫁に逃げられてしまった三郎治という男を、死神が憑き殺そうとする。「その時の自分に、よう重なってたんです」。

三郎治は徳利酒をあおりながら、孤独の中で厭世と諦観に支配され、死の到来を待っている。そして、今まさに死神が三郎治の背に飛びつこうとした瞬間、父親に会いたい一心で母親の元を抜け出してやってきた幼い娘が「とうちゃん！」と背中に飛び乗ることで彼の命は救われる。三郎治は娘のお陰で生きる力を取り戻し、徳利酒とともに死神を川にどんぶらと流す…。

「語り終えた後、吹っ切れて力が湧いた。わたしには、お話がある。これで身を立てようと」。お話で生きる励みを伝え、一日でも多く自分らしい誇りのある生き方をしようと。やがて、家も財産も捨て離婚をした。後に「おはなしさろん」の活動や、からほりや大阪への想い、自身の半生を綴った手記をまとめ、「私の大阪」、「大阪と私」という自叙伝を出版した。そして、01年に、「語り花舞台」というイベントで「私の大阪」を語った。これがストーリーテラーとしてのプロ宣言となった。

プロ宣言とはつまり、生業（なりわい）に命を懸けるという事。たなかさんにとってはお話で自己を表現し、聞く人に生きる力を伝えるという事。そんな想いがあるからこそ、「お話にはその人の人（にん）が現れる」と言う。そして、「わたしは、お話が大好き」と、強く穏やかに笑う。

（高田次郎）

からほり界隈お散歩MAP

～其の10『からほり界隈の鳥居』の巻～

古いたたずまいが今なお残るからほり界隈には、身近なお祈りのスポットが点在しています。今回は、その中でも鳥居に注目してみました。

皆さんご存知ですか。鳥居は、神域と人の住む俗世を区画するものなのです。主に神社などに建てられており、大きいものでは20mを超えるものもあります。からほり界隈に点在する鳥居は、そんなに大きくはなく、人の身長くらいの高さの鳥居が、建物の間などに建てられています。(①) 鳥居の語源のひとつに「通り入る（とおりいる）」が転じたという説があるように、鳥居は神域への入り口、門のような役割がありますが、細い路地に面しているため、社とほとんど接して建てられ、通り入ることはちょっと無理そうな鳥居もありました。(②)

からほり界隈に点在する鳥居は小さいながらも、なかなか立派なものが多く、灯篭（とうろう）と共に建てられているものもあります。(③)

からほり界隈にはこれらの他にも、楠玉社にある4つ連なりの白塗りの鳥居(④) や、建物の屋上に社とともに建てられている鳥居(⑤) などちょっと変わった鳥居もあります。

鳥居は、装飾的で曲線が用いられる「明神鳥居（みょうじんとりい）」と簡素で直線的な「神明鳥居（しんみょうとりい）」(⑥) に大別され、からほり界隈に見られるほとんどの鳥居は明神鳥居に分類されるようです。

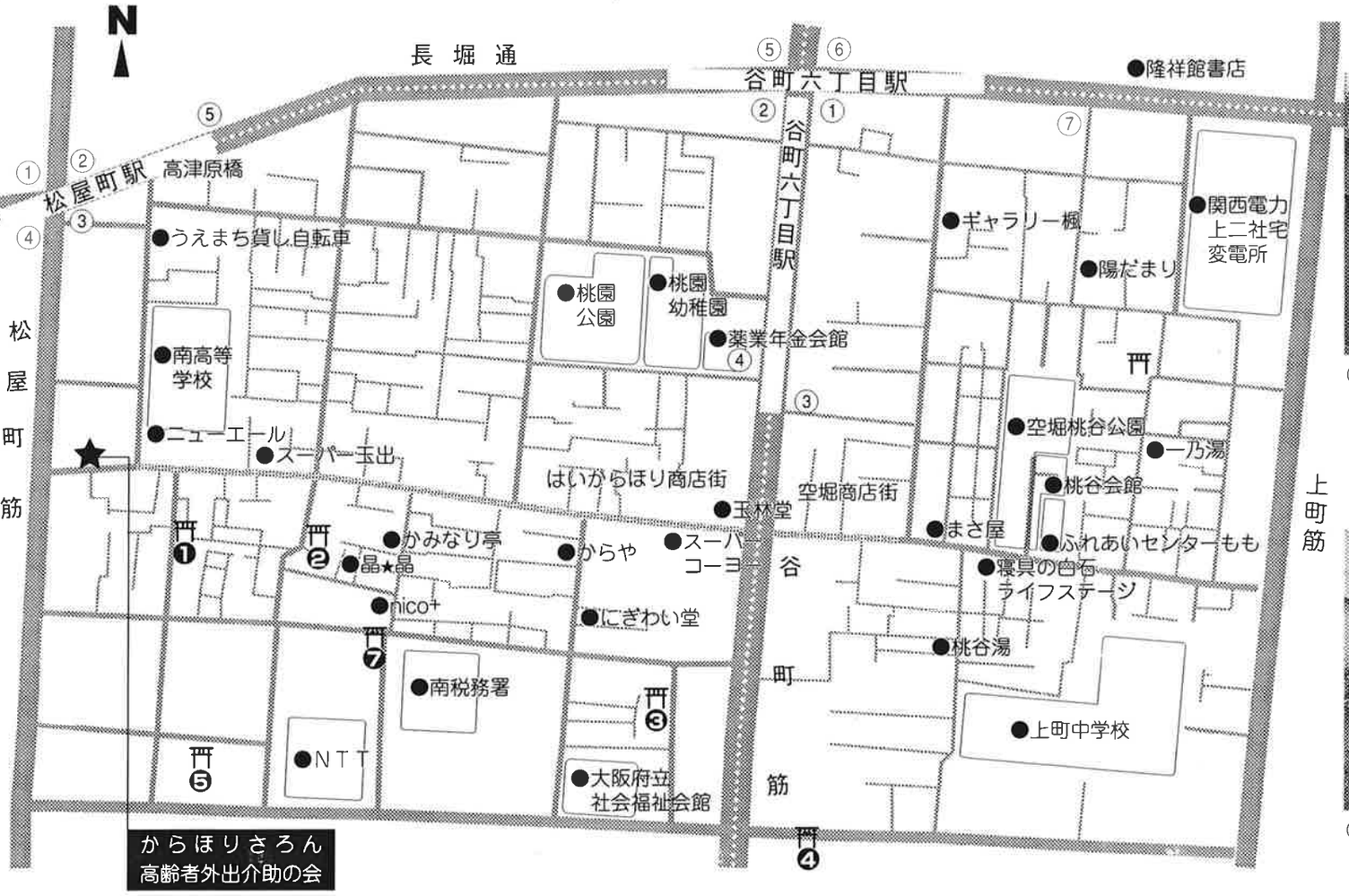
界隈を歩いていると、まちかどに鳥居の形をした置物を見かけることがあります。これは鳥居の神聖性をマークとして利用したもので、不浄な行為（立小便やゴミのポイ捨て）を禁止することを暗に意味しているそうです。また、建物が建ったことで塞がれてしまった、霊の通り道を示したものであるという説もあるようですが、真偽のほどは確かでありません。下町ならではの風景ですが、最近では見かけることが少なくなりました。

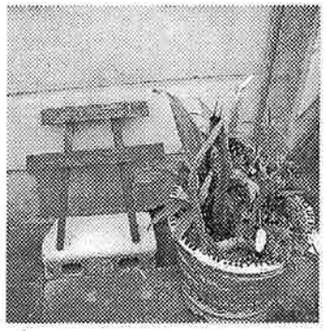
編集部では、まちの楽しい歩き方を募集中です。あなただけのまちの歩き方があれば気軽にからほりさろんまで話しに来てください。

（山添晋太郎）

①建物の間に建てられた鳥居

②細い路地に面している鳥居

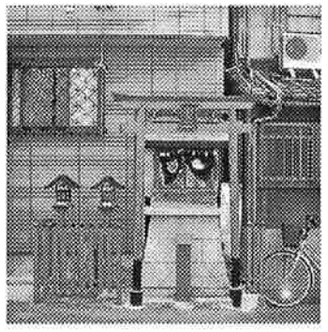



⑦鳥居の形をした置物

⑥明神鳥居と神明鳥居の構造

⑤建物屋上にある社と鳥居

④楠玉社の白塗りの鳥居


③灯篭が添えられている鳥居